

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	市道等維持管理事務	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる		
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる		
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安全安心に通行している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 道路維持事業 排水施設清掃作業、草刈作業、道路維持作業、土砂回収作業 舗装修繕工事、道路修繕工事 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
路面調査による舗装修繕進捗率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		10	20	40	60	80
	実績値	3	11				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			208,644千円	214,975千円	
人件費	a 事業費合計		199,717千円	206,111千円	247,940千円
	正規職員	人数	1.5人	1.5人	
		b 金額	8,927千円	8,864千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		8,927千円	8,864千円		
② 補助金等(収入)			7,700千円	5,225千円	26,180千円
③ コスト(①-②)			200,944千円	209,750千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			2,921円	3,049円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	老朽化により凸凹した道路舗装を修繕することで、利用者が安心して安全に通行できる環境を整備することができた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	舗装修繕箇所について計画的に路線等の選定を行い、実施していく必要がある。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	修繕工事実施後も道路パトロールによる巡回、点検を実施することにより、修繕内容の見直し、充実を図り道路に起因する事故を未然に防ぐ。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	交通安全施設管理・整備事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる		
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる		
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安全安心に通行している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全施設整備事業 交通安全施設維持事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
通学路安全プログラムによる交通安全施設整備実施率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		100	100	100	100	100
	実績値	0	100				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			23,625千円	19,838千円	
人件費	a 事業費合計		20,649千円	16,883千円	18,182千円
	正規職員	人数	0.5人	0.5人	
		b 金額	2,976千円	2,955千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,976千円	2,955千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			23,625千円	19,838千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			343円	288円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	交通安全施設整備事業の中でも通学路が関係する箇所を優先して実施しており、また豊明市交通安全プログラムでの要望により、カーブミラー、ガードレール、区画線等の設置を推進している。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	要望者に聞き取り調査を行い現地の交通の現状を把握することにより、効果的な施設整備を実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	対策実施後も合同点検や効果把握の結果を踏まえて、対策内容の改善・充実を図ります。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 生活道路対策	内容、理由、時期等 生活道路をエリアで区画し、その範囲を効果的な交通安全対策ができるようにする。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	道路新設改良事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる		
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる		
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安心して通行できるよう道路が整備管理されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・道路新設改良事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
区長要望工事の採 択率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		35	35	35	35	35
	実績値	40	38				
単位	%						
管理者施工	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		2	4	4	4	4
	実績値	2	2				
単位	箇所						

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			136,069千円	171,646千円	
人 件 費	a 事業費合計		106,314千円	142,101千円	124,595千円
	正規職員	人数	5人	5人	
		b 金額	29,755千円	29,545千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		29,755千円	29,545千円		
② 補助金等(収入)			92,559千円	25,576千円	36,100千円
③ コスト(①-②)			43,510千円	146,070千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			632円	2,123円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	やや改善が必要	△	B
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	現在土木課における工事实施のための基本精度である区長要望制度制度において、採択されている路線の整備率が低く、積み残しされている状況があり、これらの改善が必要。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	緊急性のあるものを除き、古いものから実施し、公平性をもって施工する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	区画整理内については、整備計画を作成し管理者施工で施工できるよう実施計画に上げて行く。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 区長要望制度の改善	内容、理由、時期等 区画整理内については、管理者施工に移行
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 管理者施工の新設	内容、理由、時期等 区長要望工事から切離し、計画性をもって施工する。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	街路樹管理事務	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	09 空気がきれいである		
②大施策	きれいな空気を保全する		
③中施策	緑の多い生活環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	緑の多い生活環境となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・道路維持事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
街路樹による要望 等の件数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		33	31	29	27	25
	実績値	35	45				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			29,706千円	31,791千円	
人 件 費	a 事業費合計		26,730千円	28,836千円	114,350千円
	正規職員	人数	0.5人	0.5人	
		b 金額	2,976千円	2,955千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,976千円	2,955千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			29,706千円	31,791千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			432円	462円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	街路樹は日々成長するため増大するが、住民は高齢化により自身による落葉清掃が困難になる一方で行政に頼らざるを得ない。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	道路パトロールの実施内容を精査し事前の確認を行い、通行等に支障となる前に対策を実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 街路樹撤去事業	内容、理由、時期等 公園前、調整区域等街路樹が不要と思われる箇所、及び街路樹の間隔を見直しの樹木を撤去し管理コストを低減させる。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	農業環境保全事業（土木）	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている		
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる		
③中施策	市民とともに緑が続く環境をつくる		
④中施策事業の対象	農地（勅使水系）		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	広域的な活動による農地の保全管理		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 多面的機能支払事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
事業の達成率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		70	76	77	78	79
	実績値	75	75				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			10,902千円	10,881千円	
人件費	a 事業費合計		7,926千円	7,926千円	7,926千円
	正規職員	人数	0.5人	0.5人	
		b 金額	2,976千円	2,955千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,976千円	2,955千円		
② 補助金等(収入)			5,820千円	5,820千円	5,820千円
③ コスト(①-②)			5,082千円	5,061千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			74円	74円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	勅使水系環境保全の会における多面的機能支払交付金の活動がより効果的となるよう、活動組織が自ら活動を自己評価し、市はその評価を踏まえて、指導、助言をしている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	活動計画の進捗状況を役員会に図り、効果的な活動を促進する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	毎年度の評価結果を踏まえて翌年度の活動内容を見直し、目標に向けた効果的な活動を促進する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	土地改良施設維持管理事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹
①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている		
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる		
③中施策	産業の活性化を図る		
④中施策事業の対象	農業者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	農業施設の長寿命化を図ることで、安定した農業基盤の基もと農業を営むことができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・土地改良施設維持管理事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
維持管理施設整備率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		70	70	70	70	70
	実績値	78	70				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			38,883千円	78,961千円	
人件費	a 事業費合計		29,956千円	70,097千円	60,728千円
	正規職員	人数	1.5人	1.5人	
		b 金額	8,927千円	8,864千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	7人	7人	
		金額	182千円	218千円	
人件費合計		9,109千円	9,082千円		
② 補助金等(収入)			6,710千円	6,900千円	0千円
③ コスト(①-②)			32,173千円	72,061千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			468円	1,047円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	排水機場、用排水路等の土地改良施設に対して適切な時期に適切な内容で、ポンプのオーバーホールや水路の補修等の維持管理をすることにより、施設の長寿命化を図り、施設機能の保全とライフサイクルコストの低減を図った。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	維持管理を行う上で、現況調査や機能診断を行い予防保全をする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		